

日本 EU 学会大会での報告希望(含推薦)および
『日本 EU 学会年報』への執筆希望の受付

日本 EU 学会・企画委員長
蓮見 雄

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

日本 EU 学会第 39 回(2018 年度)研究大会は、2018 年 11 月 17 日(土)および 18 日(日)に獨協大学(東京メトロ日比谷線・半蔵門線直通東武スカイツリーライン「獨協大学前<草加松原>から徒歩 5 分)において開催されることになっております。つきましては、共通論題および自由論題(経済、法律、政治・社会分野等)についての研究報告希望ならびにご推薦をお願い申し上げます。またこの大会ではポスターセッションも実施いたしますので、こちらへの応募もよろしくお願いいたします。

例年のように『日本 EU 学会年報』第 39 号への執筆希望もあわせて受け付けます。

尚、2014 年 11 月 8 日に開催された理事会におきまして、企画委員会の内規が改正され、研究大会のプログラム等については企画委員会が担当することになっております。それに伴い本文書も企画委員長名で会員の皆様に郵送し、報告希望・執筆希望も企画委員長に直接メールの添付ファイルにて送信して頂くことになりました。また、不測の事態に備えるために事務局にも同時送信して頂き、万全を期したいと思っております。別途同封致します申し込み要領で送信先等をご確認下さい。

2018 年度研究大会の共通論題と趣旨

(共通論題)「ポピュリズムとリージョナル・アクターとしての EU」

(趣旨)

今、欧州はポピュリズムと総称される様々な問題に直面しています。言うまでもなく、それらの現象の背景には、特定の国家や地域に根ざした固有の歴史的・文化的背景があります。同時に、新自由主義的な原理に基づいて遂行された市場統合の結果として市場と社会の亀裂が至るところで広がり、それらがポピュリズムという形で表出している、と考えられます。一方において、物・サービス・資本・人の自由移動と競争法の徹底は、EU において国境を越える経済活動を刺激し、自由に豊かさを追求する経済空間を拡大し続けてきました。他方において、EU 市場統合は、著しい不平等の拡大という副作用を伴っているにもかかわらず、豊かさを共有を担保するセイフティーネットの構築を必ずしも十分には伴っていませんでした。市場と社会の亀裂が顕在化し、社会不安が広がっているにもかかわらず、EU レベルの社会政策は未発達です。かといって、EU レベルにおいて、直ちに財政統合に向かうかと言えば、その前提となる政治統合を欠いています。依然として、市場と社会の和解を担う役割を期待され、またそれらを具現するツールが埋め込まれている基本的な単位は国民国家です。ところが、グローバルな競争への適応と EU によって課せられた(としばしば認識される)緊縮財政の制約の下で、国民国家は社会政策や労働市場政策を根本的に見直すことを

余儀なくされています。その結果、社会政策に対する市民の伝統的な期待に応えることが難しくなり、既存の政党や政治家に対する信頼が大きく揺らいでいます。こうした状況下において、問題を移民・難民など国外の諸要因に転嫁する言説が跋扈し、EUの基本的価値の否定や反EUという事態が生じています。

このように考えるならば、ポピュリズムと称される問題群を個別に論じるだけでは十分とは言えないでしょう。これまでのEU市場統合の経済的帰結、社会的帰結をも視野に置きながら、EUというリージョナル・アクターが、加盟諸国の連帯に基づいて地域レベルにおいて「市場と社会の和解」を担い、豊かさの共有を実現しうる独自の有効なガバナンスを再構築する展望を切り開き、市民の信頼を回復しうるかどうか、という視角から、ポピュリズムについて再検討してみる必要があるのではないのでしょうか。

そこで、今回の共通論題では、法律、政治・社会、経済の学際的な研究ができるEU学会の特質を生かして、政治現象としてのポピュリズムだけでなく、経済的背景、社会的背景をも視野におきながら、反EU、反移民・難民、テロ、法の支配の否定など、ポピュリズムと括られる諸現象に関する多角的な考察を通じて、リージョナル・アクターとしてのEUの課題と展望について、会員の皆様とともに議論したいと思えます。それは、急速に変貌しつつある世界秩序の中で、EUが責任あるグローバルなステイクホルダーとしての役割を担い、魅力ある経済社会モデルを示すことができるかどうか、について考えることでもあります。

会員の皆様からの積極的な報告希望の提案を期待いたします。

研究大会での報告を申し込む際の注意点

報告希望を出される場合、以下の点につき特にご注意頂きますようお願い申し上げます。

1. 研究大会でのご報告は、日本EU学会年報への投稿を前提としてお願いしておりますので、ご了解いただきますようお願い申し上げます。
2. 「年報」は原著論文のための学術雑誌であり、二重投稿は認められておりません。そのため、年報に投稿予定の論文と同じ内容の論文を他の原著論文誌に投稿しないようご注意ください。また、他の原著論文誌に掲載済みもしくは投稿中の論文と同じ内容の論文を「年報」に投稿することもご遠慮ください。
3. 所定期日までに完成原稿の提出がない場合、学会年報への論文掲載のための査読対象になりません（年報掲載資格を失うこととなります）のであらかじめご了承下さい。なお、その場合でも、研究大会での報告は許可されます。
4. 九州大会では、ポスターセッションが実施されます。発表希望が認められなかった場合、ポスターセッションでの発表を希望するか否かを希望申し込み用紙に記入してください。

また大学院生会員は、報告希望を出す際に、あわせて以下の書類を提出下さい。

1. 業績リスト(公刊された著書・論文一覧。書式は自由)
2. A4用紙で3枚程度の報告要旨(含参考文献リスト)

ポスターセッションへの参加を申し込む際の注意点

報告希望を出される場合、以下の点につき特にご注意頂きますようお願い申し上げます。

1. ポスターセッションは大会 2 日目（11 月 18 日の昼休み）を予定しています。ポスターを会場に貼るだけの参加はできません。ポスター作成者本人が大会に参加してポスターセッションの時間帯に説明を行う義務があります。
2. ポスターセッション参加者はペーパーを提出し、大会前後に学会サイトに報告論文と同様にダウンロード可能な状態にすることも可能です。しかしこれは義務ではありませんので、ペーパーの提出は任意ですが、提出期限等の条件は通常の報告論文と同様とします。ポスターセッションでも他学会等との二重発表は認められておりません。既に他学会で仕様したポスターの利用はできませんので、ご注意願います。「年報」への掲載を希望する場合は別途執筆希望もご提出ください。
3. ポスターの作成方法、規格等詳細については、別紙の説明分「ポスターセッションについて」をお読み下さい。
4. 大学院生会員は報告希望と同様に業績リストと A4 用紙で 3 枚程度の報告要旨を提出ください。申込時にポスター本体の送付はしないでください。

『日本 EU 学会年報』への執筆希望

学会誌『日本 EU 学会年報』第 38 号は、研究大会の報告を中心に編集する予定ですが、報告以外の研究論文および書評も掲載したいと考えておりますので、ご執筆のご希望をお知らせいただければ幸いです（なお大会報告は年報への投稿を前提としておりますので、大会での報告希望を出す場合には年報の執筆希望を別途提出する必要はありません）。原稿の締め切りは **2018 年 10 月 18 日（木）** とし、字数は、研究論文については 20,000 字以内（注、参考文献、図表を含む）で、これは研究大会の報告を論文とされる場合も同様です。また書評については 4,000 字以内（同上）です。

採否の決定と提出論文のレフェリー審査

報告者、論文・書評執筆者、ポスターセッション参加者については、企画委員会で検討したうえで選定させて頂きませんが、企画委員会として別途報告者を推薦させて頂く場合もあります。最終的には、2018 年 4 月に開催予定の理事会で審議のうえ、決定する予定にしております。そのため、必ずしもご希望に添えない場合もありますので、予めご了解頂ければ幸いです。

また、論文の年報への掲載につきましては、レフェリー制度をとっておりますのでご承知おきください。

完成原稿提出の際には、日本 EU 学会の「投稿規程」「執筆要領」「レフェリー規程」（学会ホームページおよび年報に掲載）をいま一度ご精読頂きますようお願い申し上げます。

報告希望・執筆希望の締切り

準備の都合により、別紙「申込要領」に従い、アンケート用紙（ファイルは日本 EU 学会ホームページからダウンロード可能）に必要事項をご記入のうえ、**2018 年 3 月 19 日（月）必着で、**添付ファイルにてお送りください。

以上ご案内申し上げます。

敬具

申込要領 (2018年獨協大学大会用)

1. 学会での報告希望

- (1) 【自薦用】と書かれたアンケート用紙(ファイルは学会ホームページからダウンロード可能)に必要事項を記入。
- (2) A4用紙1枚に1,000字程度(院生会員は参考文献リストも含めA4用紙3枚に3,000字程度)で報告要旨を作成(日本語)。
- (3) 院生会員は、業績リスト(公刊された著書・論文一覧)を作成。
⇒ (1)(2)を(院生会員は(3)も)、電子メールの添付ファイル(Word形式)にて企画委員長およびCCで事務局に送信する。

2. 学会での報告推薦

- (1) 【推薦用】と書かれたアンケート用紙(ファイルは学会ホームページからダウンロード可能)に必要事項を記入。
- (2) A4用紙1枚に500字程度で推薦理由書を作成(日本語)。
⇒ (1)(2)を、電子メールの添付ファイル(WordまたはPDF形式)にて企画委員長およびCCで事務局に送信する。

3. ポスターセッションへの参加希望

- (1) アンケート用紙(ファイルは学会ホームページからダウンロード可能)に必要事項を記入。
- (2) 参考文献リストも含めA4用紙3枚に3,000字程度で報告要旨を作成(日本語または英語)。
⇒ (1)(2)を、電子メールの添付ファイル(WordまたはPDF形式)にて企画委員長およびCCで事務局に送信する。

4. 年報への論文執筆希望

- (1) 執筆希望アンケート用紙(ファイルは学会ホームページからダウンロード可能)に必要事項を記入。
- (2) A4用紙1枚に1,000字程度で執筆予定論文の要旨を作成。
⇒ (1)(2)を、電子メールの添付ファイル(WordまたはPDF形式)にて企画委員長およびCCで事務局に送信する。

5. 年報への書評執筆希望

- (1) 執筆希望アンケート用紙(ファイルは学会ホームページからダウンロード可能)に必要事項を記入。
- (2) A4用紙1枚に500字程度で書評の要旨について記述。
⇒ (1)(2)を、電子メールの添付ファイル(WordまたはPDF形式)にて企画委員長およびCCで事務局に送信する。

提出先： 日本 EU 学会・企画委員長 蓮見 雄

【送付先アドレス】 [yuhasumi\[アットマーク\]rikkyo.ac.jp](mailto:yuhasumi@rikkyo.ac.jp)
(ccで事務局に同時送信して下さい。[ymorii\[アットマーク\]ask.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:ymorii@ask.c.u-tokyo.ac.jp))

提出期限：2018年3月19日(月) 必着

注意：ファイルの着信から3日以内に、企画委員長より到着確認メールをお送りします。3月22日(木)を過ぎてもなお確認メールが届かない場合、事務局までご連絡をお願いします。

【自薦用】2018年度 日本 EU 学会研究大会報告希望アンケート用紙

報告者本人に関する情報	
ふりがな 氏名 (日本語)	
氏名 (英語)	
所属・職名(日本語)	
所属・職名(英語)	
ご住所	〒
電話	
FAX (任意)	
Eメールアドレス	@
大会での報告内容 []内は、該当項目に○を付ける。	
使用する言語	日本語 [] 英語 []
希望するセッション	共通論題 [] 自由論題 []
専門分野	経済 [] 法律 [] 政治・社会 []
論題名 (日本語)	
論題名 (英語)	
ポスターセッション	口頭報告できない場合のポスター発表 希望する [] 希望しない []

【推薦用】2018年度 日本 EU 学会研究大会報告希望アンケート用紙

推薦者に関する情報	
氏名 (日本語)	
所属・職名(日本語)	
Eメールアドレス	@
報告者(=被推薦者)に関する情報 (* 印以外はわかる範囲でご記入ください)	
ふりがな 氏名 (日本語) *	
氏名 (英語)	
所属・職名(日本語) *	
所属・職名(英語)	
ご住所	〒
電話 *	
FAX	
Eメールアドレス *	@
大会での報告内容 []内は、該当項目に○を付ける。	
使用する言語	日本語 [] 英語 []
希望するセッション	共通論題 [] 自由論題 []
専門分野	経済 [] 法律[] 政治・社会 []
論題名 (日本語)	
論題名 (英語)	

『日本 EU 学会年報』第 39 号 執筆希望アンケート用紙*

* 研究大会報告希望アンケートを出す場合、この執筆希望アンケートの提出は不要です。

執筆者本人に関する情報 (必須)

ふりがな	
氏名 (日本語)	
氏名 (英語)	
所属・職名(日本語)	
所属・職名(英語)	
ご住所	〒
電話	
FAX	
Eメールアドレス	@

⇒ 以下の「論文執筆希望」もしくは「書評執筆希望」のどちらかにご記入下さい。

『日本 EU 学会年報』論文執筆希望 []内は、該当項目に○を付ける。

使用する言語	日本語 [] 英語 []
専門分野	経済 [] 法律 [] 政治社会 []
論題名 (日本語)	
論題名 (英語)	

『日本 EU 学会年報』書評執筆希望

著者名	
文献名	
出版社名	
発行年	
頁数	

2018年度 日本 EU 学会研究大会ポスターセッション参加希望アンケート用紙

報告者本人に関する情報	
ふりがな 氏名 (日本語)	
氏名 (英語)	
所属・職名(日本語)	
所属・職名(英語)	
ご住所	〒
電話	
FAX (任意)	
Eメールアドレス	@
ポスターセッションでの報告内容 []内は、該当項目に○を付ける。	
使用する言語	日本語 [] 英語 []
専門分野	経済 [] 法律[] 政治・社会 []
論題名 (日本語)	
論題名 (英語)	

ポスターセッションについて

日本EU学会では発表機会の拡大、学会内での議論の活性化等のため、ポスターセッションを実施することとなりました。ポスターセッションは、報告者との緊密なコミュニケーションが可能という点で聞く者にとっても大変有意義な報告形式です。以下の参加要項をお読みの上、ポスターの作成、セッションでのプレゼンテーションの準備をしてください。

1. ポスターセッションは、会場で研究発表を行うため、研究内容をまとめたポスターの掲示とポスターを前にして大会参加者への説明から構成されます。ポスターの掲示のみの参加はできません。発表者はポスターセッションに割り当てられた2日目の昼休みの時間にはかならずポスターの前に立って説明していただきます。
2. ポスターセッションで発表される内容はEU研究であればテーマは問いません。共通論題と関連していなくても構いません。日本語だけでなく、英語での報告も可能です。
3. ポスターセッションではポスターに記載された発表内容を最大でも5分以内で口頭説明できるように準備してください。ポスターセッションでは大会参加者とポスター発表者の直接の小規模で密なコミュニケーションを想定しています。一方的に話すのではなく、随時の質問やコメントに柔軟に応えられるように準備してください。
4. ポスターの大きさはA0版（縦119cm×横84cm）とします。A0版を縦長で掲示するものとします。色指定、フォントの大きさ、内容の作成方法について特段の規定はありません。A0用紙にプリントアウトして利用しても構いませんし、A4版用紙を利用してA0版用紙に貼り付けても構いません。会場に持参し自分で掲示を行う場合にはA0版一枚である必要はありませんが（その場合でも与えられるスペースは縦長のA0版の大きさです）、あらかじめ送付する場合にはかならずA0版の形で送付してください。1メートル程度離れて立った位置から読めるフォントや図表の大きさで作成することをお勧めします。また、ポスターの他にA4版のオリジナル論文や報告レジュメ等を用意し、配付することも可能です。
5. ポスターはプリントアウトされて掲示できる形であらかじめ開催校に送付していただくか、大会開催第1日目の指定時刻に会場まで持参していただきます。開催校へのデータによる送付は認めておりません。ポスターをボードにとめるための画鋏やセロハンテープ等は会場に用意いたします。PCの持ち込みは自由ですが、電源等の供給、プリントアウトはできませんのでご了承ください。
6. ポスターセッションは2日目の昼休みに開催しますが、1日目の昼の時間帯、休憩時間帯にも発表者がポスターの前に立って大会参加者に説明していただくこともできます。
7. ポスターセッションの発表者の選考にあたっては大学院に在籍している会員を優先いたしますが、会員であればどなたでも応募可能です。ポスターセッションの参加者と発表タイトルも大会プログラムに記載しますので、業績の一つとしても評価の対象になり得ます。
8. ポスターのPDF形式の電子データがある場合には、報告ペーパーと同様に会員のみが利用できる学会ページからダウンロード可能な形で会員に配布することが可能です。

す。その場合の締切り期限等は投稿論文と同じです。

9. 企画委員会で検討中ですが、1日目の共通論題の会場でワンミニッツセッションを実施する可能性があります。各報告者がスライド1枚を映写しながら、ポスター発表の内容を簡潔に要点のみで最大1分間で会員の前で発表していただく可能性があります（時間厳守、1分15秒経過時点でベルを2回ならして強制終了とする予定です）。